

実習科目1-6

実験動物学実習モデル・コア・カリキュラム

全体目標

動物実験計画の立案と審査について学ぶとともに保定、投与、採血、麻酔、鎮痛、安楽死、剖検・採材などの基本的動物実験手技を修得する。また、実験動物の品質を保証するための遺伝的モニタリングや微生物モニタリング、および発生工学の基礎技術を体験し、動物実験を実施するための基盤を理解する。

(1) 動物実験計画の立案と審査

一般目標：

動物実験計画書の作成と審査の概要を理解する。

到達目標：

- 1) 動物実験計画の立案に際して検討すべき事項を理解し、科学的でかつ実験動物の福祉に配慮した動物実験計画書を作成できる。
- 2) 動物実験計画書の内容を理解し、その妥当性を判断できる。

(2) 動物実験の基本的な手技

一般目標：

保定、投与、採血、麻酔、鎮痛、安楽死、剖検・採材などの基本的動物実験手技を修得する。

到達目標：

- 1) 各種実験動物に適した保定、投与、採血方法について理解し、実施できる。
- 2) 各種実験動物に適した麻酔、鎮痛、安楽死の方法について理解し、説明あるいは実施できる。
- 3) 各種実験動物の解剖学的理解に基づく採材方法について理解し、実施できる。

(3) 実験動物の遺伝学的品質

一般目標：

実験動物の遺伝学的品質を維持するための方法ならびにそれを保証するための検査法について理解し、実験手技を修得する。

到達目標：

- 1) 遺伝的モニタリングの意義とそれに用いられる検査法について理解し、実施できる。

(4) 実験動物の微生物学的品質

一般目標：

実験動物の微生物学的品質を維持するための方法ならびにそれを保証するための検査法について理解し、実験手技を修得する。

到達目標：

- 1) 検疫および微生物モニタリングの意義とそれらに用いられる検査法について理解し、実施できる。

(5) 発生工学の基礎技術

一般目標：

遺伝子改変動物の作製ならびに実験動物の維持・保管などに利用される発生工学の基礎技術について理解する。

到達目標：

- 1) マウスの採卵、体外受精、卵管および子宮移植、および胚や精子の凍結保存法について理解し、実施できる。